

# 授業における共通実践事項

研究主任 俵

# やってほしい教師の心がけ 17

<b>導 入</b>	<b>【めあて】</b> ・めあては、児童の発言を引き出しながら設定する。教師だけで決めない。 内容次第だが、「どのようにして～するのだろうか。」のような疑問形で設定する。 →めあてに対するまとめができるように ・教師は「めあて」は必ず板書し、黄色で囲む。児童は、赤で囲む。 ・みんなで声に出して1回読む。この時間に何をすべきかしっかり確認させる。	
	<b>展 開</b>	<b>【見通しをもたせる】</b> (結果の見通し) 予想・仮説・構想 (方法の見通し) 既習内容・順序・手段(ツール)
<b>ひ</b>	<b>【見取りと机間指導】(個別最適な学び)</b> ・ノートやワークシートへの記入状況や課題への取組状況を把握 ・学習の進め方や理解の実態を把握 ・つまずきの把握	
<b>か</b>	<b>【聴き合いタイム】(協働的な学び)</b> ○分かったこと・考えたことを聴き合う →友達の考えを他の友達へアウトプット 共有させるための働きかけ(予想・再生・換言・要約・共感・発見・補助) ○分からなかったことや間違ったところを聴き合う →課題や原因をみんなで探る、解決する(事実・方法・理由)	
<b>わ</b>	<b>【教師による問い返し】(深い学び)</b> 児童の思考が活性化させる問い返しとは？ ○比較する ○分類する ○関係付ける ○視点(立場)を変える ○推論する・適用する ○選択・判断する ○見通す ○批判する ○振り返る	
<b>終 末</b>	<b>【まとめ】</b> ・まとめも、本時の学びのキーワードをもとに児童の発言を引き出しながら設定する。 ・教師は「まとめ」は必ず板書し、赤色で囲む。児童は、赤で囲む。	
	<b>【ふり返し】</b> ・ふり返りの視点「じ・も・と」に沿ったふり返しをする。 ・必ずしも毎時間行わなければならないわけではなく、必要に応じて適宜実施する。単元末では必ず実施する。	

- 1 チャイムと同時に始め、チャイムと同時に終わる。
- 2 導入の際、ICTを使って資料を提示し、児童の興味・関心を引き出す。
- 3 本時の「まとめ」をもとに、「めあて」をどのようにするのか考える。
- 4 「まとめ」が「めあて」の答えになるように児童から言葉を引き出す。
- 5 「めあて」はできるだけ疑問形で設定する。
- 6 「めあて」をノートに書かせたら、全員で声に出して1回読む。
- 7 課題解決に向けた「見通し」をみんなで確認する。
- 8 机間指導で児童の取組状況や実態、つまずきを見取る。
- 9 全員が1人学びできるような手立てを講じる。
- 10 教師が指名したら、「はい」と返事をさせる。
- 11 児童の発言や発表に対して「いいです。」「わかりました。」は×
- 12 ペア活動を取り入れて、一人一人にアウトプットの機会を確保する。
- 13 聴き合う時は、お互いに体を向けて聴き合う。
- 14 分からないことや間違ったところを聴き合う時間を設ける。
- 15 深い学びに向けた「問い返し」を児童の発言をもとに行う。
- 16 「まとめ」を行う前には、必ず「めあて」に立ち戻る。
- 17 ふり返りの視点「じ・も・と」に沿ったふり返しをする

〜ふりかえりの視点〜

- じ 自分がんばったこと
- も もっと知りたい・やってみよう
- と 友だちの考えていいなと思ったこと